

家庭学習応援だより

第9号

先日は、統合小学校の保護者説明会が開催されました。ご参加いただき、ありがとうございました。統合まで、残り2カ月です。子供たちが、「上島東小学校での学び」を統合小学校や中学校などで発揮するために、学校と家庭で手を取り合い、確かな学力の育成を目指していきたくと思います。ご協力よろしくお願いします。

さて、前号で予告しました通り、本校児童の「県学力診断テスト」の結果から見てきたことについて触れていきます。今号はお伝えしたいことがたくさんあるので、さっそく本題に移っていきます。



今年度のテストの傾向

全学年のすべての問題に一通り目を通してみました。例年とは出題傾向が変わっている点がありました。では、学年別、教科ごとに取り上げていきます。低学年の保護者の皆様には、数年後を見据えどんな問題が出題されたか確認するために、ぜひお読みください。高学年の保護者の皆様は、もう終わったテストですから子供の結果について小言はあまり言わず、これからの家庭学習や次年度の学力診断テストを頑張らせてほしいです。

4年国語

- 多くの設問が例年の出題傾向と変わらない。
- 物語文の設問には、思考ツール(プロットダイヤグラム)を使った問題が登場。
- 作文課題は、校外学習先へのお礼の手紙を見学の振り返りをもとにして書かせる問題。

4年理科

- 例年通りの出題傾向と言える。
- 実験観察の器具の扱い方に関する設問が出されている。

4年算数

- 例年通りの出題傾向が続いている印象。
- 難易度も変わらない。
- 児童が間違えやすい□の位までの概数に直してから解答する課題も出題された。

4年社会

- 「都道府県カード」を作る場面を意識した課題が出題され、他県のカードの記述を参考にして、茨城県の紹介文を書くという内容。
- どの課題も教科書の資料に似た設問であるが、資料一つ一つを丁寧に読み取る必要がある。

5年国語

- 多くの設問が例年の出題傾向と変わらない。
- 例年通り詩歌(短歌や俳句、和歌など)の鑑賞は、高学年から出題される。文語を口語に直す問題など。
- 作文課題は、予め立場が決められていて、その立場に沿った主張文を書かせる問題。

5年理科

- 出題傾向が変わり、難易度が上がった。
- ふりこの問題が出題された。また、電磁石の問題は出題されなかった。(6年理科を参照)
- 食塩やミョウバンが水に溶ける課題では、授業の展開「実験、結果、考察、まとめ」を意識した設問が出題された。
- 教科書に資料として出てくるページからの出題があった。

5年算数

- 例年の出題傾向と大きくは変わらない。
- 式や言葉、言葉や数、図を使って解答させる問題が増えた印象。
- 分配法則や結合法則を活用した課題、直方体を組み合わせた立体の体積を求めるために立式された値の意味を説明する課題が出題された。

5年社会

- 例年通り地理分野からの出題が多いが、難易度は上がった。(国土、気候、漁業、農業、工業など)
- 「わたしたちの茨城県」(社会副読本)からの出題では、国際都市つくばに関する設問。
- 資料も「私たちの茨城県」から多く引用されている。細かい資料からも出題されている印象。

6年国語

- 多くの設問が例年の出題傾向と変わらない。
- グラフを選ぶ問題では、グラフの特徴など、算数で学んだ知識が必要になる。
- 作文課題は総合的な学習の時間にプレゼンテーションをするための原稿を作成する設問。
- 教科横断的な学力を問う内容。

6年理科

- 例年の出題傾向と大きくは変わらない。
- ふりこの実験や観察の問題が5年で出題されたため、電磁石の実験や観察の問題が出題された。(5年理科を参照)

6年算数

- 例年の出題傾向と大きくは変わらない。
- 全体的な難易度は決して高くない。
- 正方形と円を使った複合図形の面積を求める課題では、面積の値を答えにせず、立式を解答とする設問が出題。

6年社会

- 公民分野と歴史分野から出題は変わらず。
- 公民分野の出題が増えた。
- 対話的、協働的な授業やグループ活動の場面を意識した設問が多く、複数の資料から解答することがポイント。
- 記述による解答を求める設問が多い印象。

気になる結果は？



ここでは、本校と茨城県全体の平均正答率を比較して、学校や家庭でどこに力を入れて学習したらよいかを考えてみたいと思います(本校の数値を明示することは控えます)。個々に課題はあると思いますが、全体の印象として、家庭での学習は「算数」に時間を割いてみてはどうかと思います。算数は、どの学年も県平均を下回っていました。5年生の肩をもつわけではありませんが、5年生の算数は、学習内容が多く設問の難易度も上がります。毎年正答率が、他学年と比べて伸び悩む傾向があります。結果が悪かったからといってがっかりすることはありません。テストはその時点(1月13、14日)の学力をはかるものでしかありません。それよりも、問題用紙が返却されたら、お子様と一緒に、一度解き直して「今」の学力を向上させてください。

県平均正答率	国語	社会	算数	理科
第4学年	67.6% (▼)	72.3% (▼)	70.0% (－)	78.8% (▼)
第5学年	70.0% (－)	68.8% (－)	57.1% (－)	66.3% (▲)
第6学年	76.2% (－)	71.4% (－)	69.7% (－)	67.3% (▲)

※ ()の▲は、県平均よりも5ポイント以上、本校児童の正答率が高い。▼は、県平均よりも5ポイント以上、本校児童の正答率が低い。－は、上下5ポイント以内。



おわりに

今号は、学力診断テストの話題ばかりになってしまったので、低学年の保護者の方々にもお読みいただけるようにいつもより「おわりに」を拡大させます。「寝る子は育つ」ということわざは本当なのでしょうか？最近になり、睡眠と学習の定着に関する情報は多く見られるようになってきました。そのため、これをお読みの保護者の方々も、「寝る間を惜しんで、〇〇に励む」、「四当五落」を美德としてきた日本人の行動様式が脳機能、脳科学や児童発達の間からすると間違いだったことに気付くと思います。子供の夜更かしを許しているご家庭は、必見です。

では、睡眠と学習にはどんな関係があるのでしょうか。甲南大学の前田准教授によると、1つは「記憶の固定」だそうです。「睡眠時間が短すぎると、記憶の固定が十分にできないため、前日に覚えたこと・練習したことなどがうまく身につかない」とのことです。他県児童の調査ですが、早く入眠する児童ほど国語と算数の成績がよいという結果が出ています。また、小学5年生を対象とした調査では、7～9時間の睡眠した児童が最も成績がよかったという結果もあるそうです。十分でない睡眠時間は、①集中力の低下、②論理的思考の機能低下、③学習意欲の低下、④イライラしやすくなる、といった学力の向上にとってマイナスばかりです。また、近年では睡眠と「自殺リスク」との因果関係もはっきりしてきており、自殺者の平均睡眠時間が5時間であることがわかっていますし、睡眠時間が5時間を切る日が続くと、脳が常にアルコールを数杯飲んでいるのと同じ状態になることも研究からわかっています。抑うつ傾向になりやすい睡眠時間も5時間以下なのだそうで、脳の神経細胞の回路形成や脳機能が未発達の子供にとって、睡眠不足はあらゆる面で足かせになると言えるでしょう。

さらに、注目したいのは今年になってから発表された名古屋大学医学部、浜松医科大学の共同研究の発表です。ADHD(注意欠陥・多動性障害)は、近年一般でも聞かれるようになってきた言葉ですが、子供の入眠時刻とADHD症状の因果関係は、①子供の入眠時刻が遅いとADHD症状が強くなること、②ADHDの遺伝リスクが低い群では、入眠時刻が遅いとADHD症状が20%程度高くなるという論文が発表されました。

以前、このお便りの「コミュニケーションボード」で、ある学級の担任から児童の学習の様子について「朝から眠たそうにしている」とお伝えしたことがありましたね。睡眠習慣を見直すことで、お子様の学力向上につながるかもしれません。だまされたと思って試してみは？